

令和3年度 藤沢総合高等学校 不祥事ゼロプログラム検証等

項 目	目 標	行 動 計 画
法令遵守意識の向上	公務員の自覚をもち、信用失墜行動を防止する。	教職員の事故・不祥事が発生した際は、記者発表資料を活用し、迅速に情報発信し、公務外非行を含め信用失墜行動の防止に向けた意識啓発を行った。「職員行動指針」「倫理に関する指針」に基づき、県職員・教育公務員として求められる姿勢を確認した上で、職員一人ひとりが、県民の期待と信頼に応える行動ができるよう取り組んだ。
職場のハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の行為防止	人権意識を高めハラスメントのない風通しの良い職場づくりをする。	啓発資料等を活用した情報共有、セルフチェックを実施しながら、パワハラ・セクハラ・マタハラ等の発言や行為のない風通しの良い職場づくりに取り組んだ。気づいたことについては、職員どうしの互いの指摘や職場アンケートの実施等を通じて職場環境の改善を図った。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	教育の専門家としての自覚・意識を高め、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を絶対にしない。	セクハラ・わいせつ行為の加害者に絶対にならないよう、方法や内容を工夫した「職場討議」を実施し、職員一人ひとりの不祥事を絶対に起こさない意識を高めてきた。生徒の連絡先の適正な取得・管理方法について、ルール of 徹底に取り組んできた。次年度にはさらなる徹底を図りたい。
体罰、不適切な指導の防止	体罰・不適切指導は、あってはならない行為と共通認識し、未然に防止する。	新聞記事や啓発資料等を活用して、体罰事案などの具体例を確認し、職員の人権感覚を高め、生徒により適切な指導ができるよう努めた。「校内人権窓口」については、生徒がより相談しやすい環境が作れるよう、様々な方法で生徒への周知を図った。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルに基づく作業手順や点検体制を再確認し、事故を未然に防止する。	成績の処理、調査書等の進路関係書類の発行に際しては、マニュアルに沿って業務を進め、確認・点検等を徹底することができた。成績等の入力・点検を行う時は、必ず複数の職員での作業・確認を徹底した。 入学者選抜制度については、校内研修会を通じた業務内容・手順等についての共通理解、啓発資料を通じた過去の事故事例の確認等を通じて、確実な業務遂行に向けた職員の意識を高め、入選事故を未然に防ぐことができた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の管理には細心の注意を払い、流出や紛失を未然に防止する。	個人情報の取扱いに係る啓発資料やチェックシートを活用し、職員の意識向上を図り、個人情報の流出・紛失を未然に防止することができた。個人情報を持ち出す際の「個人情報持ち出し許可願」による申請等、手続きの徹底を図った。個人情報の管理については、次年度はさらなる徹底を図りたい。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	教育公務員としての自覚を持ち、法規範遵守の徹底、交通事故、飲酒運転等の根絶を図る。	交通事故や飲酒運転等の防止に向けて、啓発資料等を活用した職員の意識向上を通じ、交通事故等を防止することができた。 飲酒を伴う会合がある場合は、翌日への影響も含めて、自家用車、自動二輪車（自転車を含め）を使用しないことを徹底した。
業務執行体制の確保等	不適正な業務執行を未然に防止する。	気になることはそのままにせず、互いに声をかけ合い、職員どうし協力しながら業務を遂行することができた。引き続き「ほう・れん・そう」を徹底したい。 6つのグループ間での業務内容の共有、職員が協働した業務遂行については、次年度は、より意識した上で、それぞれの取組を進めていきたい。

○令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

日頃から、絶対に事故・不祥事を起こさない職場とするため、年間を通じて機をとらえながら、職員全体に働きかけ、意識啓発・注意喚起を行ってきた。このような取組を通じて、令和3年度については、事故・不祥事0を実現できたと考えている。些細なことでも違和感等も見逃さずに改善を図り、職員一人ひとりの意識、行動をさらに高めながら、令和4年度についても、事故・不祥事0を徹底する取組を進めたい。